

タツンは『エルサレム解放』で著名だが、本「コレクション」ではその詩学の根幹である『詩作論』を取り上げている。ガリレオ・ガリレイやボテロの影響を受けた南イタリア出身の自然哲学者（魔術師）にトンマーゾ・カンパネッラがいるが、かれは本質的に「詩人」であり、その集大成ともいえる『哲学詩集』を扱っている。

また忘れてはならないのは、ヴェネツィアで活躍した当代随一の諷刺作家ピエトロ・アレティーノである。彼は宮廷生活や有力者を徹底してあざけり、恐れられた。次のガリレイは数学的自然観の樹立に貢献したが、本「コレクション」ではその肉声とも思われる『書簡集』を訳出している。そしてマルシリオ・フィチーノは、ルネサンス期にプラトンの著作集をギリシア語からラテン語に翻訳して思想界に新風を吹き込んだ人士であり、今回はその晩年の著作『人間の生について』を翻訳した。

本「コレクション」の刊行は、「イタリアルネサンス文学・哲学」の研究に大きく寄与することだろう。貴重な文献を日本語で読めるようになることで、ルネサンスの、いわゆる「人間と自然の発見」、「人文主義の思想」に触れ得る機会により多くの人が恵まれるだろうと確信する。

澤井繁男

本コレクションの特色

本邦でその思想と業績が十分に紹介されていない、イタリアルネサンス文化を象徴する作家／思想家を六種類の分野（政治・詩作・哲学・演劇・自然科学・魔術）から人選出し、その中心的著作を収録する（全編・本邦初訳。各巻に、最新の研究成果を反映した、訳者による充実した解説／解題を付す。（装幀＝西山孝司）

A5判上製／各巻二〇〇―四五〇頁／予価三〇〇―五〇〇円＋税

刊行予定 二〇一九年中に完結予定。

第一回配本

都市盛衰原因論

ボテロ（石黒盛久訳）二〇一九年三月刊行予定

第二回配本

詩作論

タツン（村瀬有司訳）二〇一九年四月刊行予定（以降隔月刊）

【申込書】

本状を最寄りの書店をお持ちの上、ご注文ください。

「アマゾン」では販売しておりません

水声社 〒二二一〇〇二 東京都文京区小石川二七七一五 電話〇三―三八―八一六〇四〇 ファックス〇三―三八―八一四三三七

イタリアルネサンス文学・哲学コレクション

1	ボテロ『都市盛衰原因論』	冊
2	タツン『詩作論』	冊
3	カンパネッラ『哲学詩集』	冊
4	アレティーノ『宮廷生活』	冊
5	ガリレイ『書簡集』	冊
6	フィチーノ『人間の生について』	冊
全巻セット		冊

お名前	
ご住所	
書店(番線)印	



イタリアルネサンス文学・哲学コレクション

全6巻

責任編集 澤井繁男

2019年3月
刊行開始

水声社

明治期以来のイタリア文学の翻訳の歴史は、フランス語や英語に訳された文献からの重訳が多かった。戦後になってようやく、一九三〇年代生まれの研究者による、イタリア語からの直接の翻訳が始まった。それもいわゆる世界的な名著の翻訳が優先された。ダンテの『神曲』、ボッカッチョの『デカメロン』、マキャヴェッリの『君主論』といったものだった。今もってルネサンスが近代の始まりという説が高等学校の授業で教示されている。だが、その中心たる人物であるダンテは、「中世の幕を閉じた巨匠」として、目下、学問的には位置づけられている。言うまでもなく、『デカメロン』『君主論』だけが代表作ではない。

ルネサンス文化を象徴する著作は他にもあって、それは未訳のままである。

この「コレクション」は、ルネサンス期を彩った六種類の分野（政治・詩作・哲学・演劇・自然科学・魔術）を代表する著作の、みな本邦初訳の作品でなりたっている。おおかたの読者諸賢には知らない名前の著者がいるだろう。ここで取り挙げる執筆者たちの作品は、執筆領域は違えど、「イタリアルネサンス文学・哲学」の中核をなす書物はかりである。

ルネサンスは都市を核とした文化で、都市国家論も多く遺されている。そのなかでジョヴァンニ・ボテロの『都市盛衰原因論』は小品だが出色の著作である。十六世紀の後半、反（対抗）宗教改革の時代を生きた詩人トルクアート・

刊行のことは